

## 住民目線による情報発信(高根沢町)

### 【基本情報】

団体名: 第2層協議体/北高くらし支えあい協議体、つながる絆あくつ協議体

構成メンバー: 地域住民・地域の福祉事業所

### 【取り組み概要】

対象者層: 高根沢町民

活動頻度: 各月1回

活動場所: 社会福協議会会議室

平均利用者数: 各10~15人程度

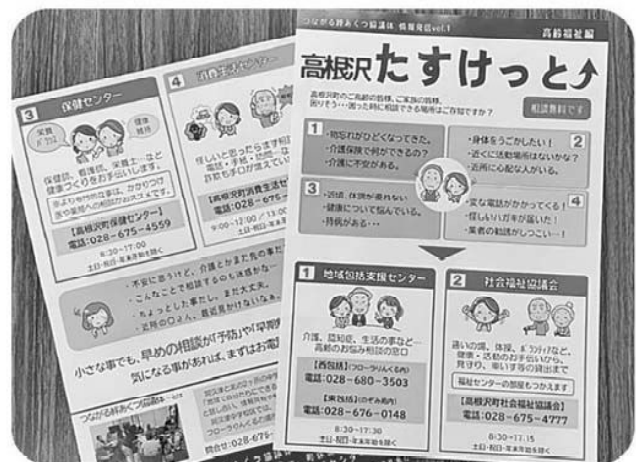
利用料金: 無料

### ●取り組みの内容

既存の取り組みをより多くの地域住民に知ってもらうため、サービスの活用方法や詳細等について、住民目線でまとめたチラシを作成し、PR。

### ●取り組みをはじめたきっかけ

第2層協議体において、地域課題の共有を図る中で、住民から「デマンドバスたんたん号や高齢者の相談窓口について、チラシを作成してはどうか」という意見が出たことがきっかけとなった。



### ●取り組みにあたっての工夫点

既存の冊子や登録ガイド等と合わせて使えるようにする。

住民目線で必要な情報を選ぶ。

実際にたんたん号に登録、活用するなど、自分たちがまず体験する。

担当者や実施団体に依頼し、質問会を行う。

基本的に、協議体メンバーがチラシを置く場所を開拓していく。

## ●効果・実績

- ・チラシを見て、問い合わせをしてくれた方がいた。(2~3件)
- ・メンバーが地域活動の中で、「見た」、「活用した」との声をいただいたと報告があった。
- ・チラシの設置場所から補充の連絡があるなど、実際に手に取ってもらえている。

## ●活動にあたり連携している団体等

- ・高根沢町社会福祉協議会
- ・高根沢町健康福祉課
- ・高根沢町地域安全課
- ・宝積寺タクシー
- ・高根沢町西地域包括支援センター
- ・高根沢町東地域包括支援センター



## ●活動に関する広報方法

- ・制作したチラシの配布
- ・協議体メンバーによる口コミ
- ・広報誌によるPR
- ・町役場や関係各所の窓口への設置

## ●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

- ・参考情報の収集
- ・関係各所との連絡調整
- ・チラシレイアウトの作成(アイデアはメンバーから出してもらう)

## ●現時点での課題・今後の展開

第2層協議体の新規メンバーの募集、公開講座等の実施が難しい。  
今後は新型コロナウイルス感染症の対策をとりながら、徐々に元の協議体の活動に戻していきたい。



## 寸劇を用いた啓発活動(那須町)

### 【基本情報】

団体名:那須町生活支援体制整備協議会(通称:なすあった会)※事務局是那須町社協	
構成メンバー:ボランティア・団体・社会福祉法人・NPO法人・民生委員等	所在地:那須町大字寺子乙2566-1
電話番号:0287-72-5133	メールアドレス:info.yume@nasu-shakyo.jp

### 【取り組み概要】

対象者層:住民	活動頻度:住民からの依頼により随時
活動場所:町内サロン・地域の集会所等	平均利用者数:15~20名
利用料金:なし	

### ●取り組みの内容

住民同士の助け合い・支え合い活動の重要性について、住民に分かりやすく説明するため、なすあった会メンバーが地域に出向き、高齢化の現状説明や寸劇を活用した普及啓発を実施。

### ●取り組みをはじめたきっかけ

住民同士の助け合い・支え合い活動をさらに住民に周知するため、寸劇を作成し、令和元(2019)年9月、活動を開始した。



### ●取り組みにあたっての工夫点

観る側が飽きることなく、助け合いを感じることができるよう、寸劇所要時間を10分程度とした。

観る方が、助け合いが「ある」・「ない」ではどのように違うか、比較できるように「こんな地域は嫌だ」と「こんな地域に住みたい」の2パターンを作成した。

「こんな地域は嫌だ」

⇒困っている高齢者に対し、見て見ぬふりをするご近所さんがいる場面。

「こんな地域に住みたい」

⇒最近、夫を亡くし、一人暮らしとなった高齢者に対し、ご近所さんが訪問し、電球の交換をしてあげる場面。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域に出向くことが難しくなったことから、寸劇を映像化し、YouTubeへの掲載やDVDの貸出を予定。

## ●効果・実績

寸劇を観た後の感想として、「文章を見るより、寸劇の方が分かりやすく伝わる」、「寸劇のとおり、助け合いは必要だ」、「これからは近所同士での声掛けが必要だ」、「一人暮らしの高齢者が多くなってきているから、気遣いや話し相手になってあげたい」というものがあった。

令和元(2019)年度の寸劇活動実績

- ・ボランティアセンター主催講座
- ・地域サロン 等

## ●活動にあたり連携している団体等

- ・那須町保健福祉課
- ・那須町生涯学習課
- ・那須町社会福祉協議会

## ●活動に関する広報方法

- ・那須町広報に掲載
- ・那須町社協だよりに掲載
- ・地区社協会議の際に周知
- ・サロンで周知



## ●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

- ・寸劇原案作成
- ・地区社協役員やサロン担当者等に、寸劇を行えないかの呼び掛け
- ・寸劇が行える場合には、日程調整をし、なすあった会で寸劇に参加できる方の人員調整
- ・地域のサロン等に参加し、日本の高齢化の現状や寸劇説明

## ●現時点での課題・今後の展開

現時点での課題として、新型コロナウイルス感染症の影響で、休止するサロンが多く、寸劇を用いた啓発の機会がない。

また、YouTubeやDVDで寸劇を観ることが難しい方がいるとともに、YouTubeで寸劇を観た方が、住民同士の助け合い・支え合い活動の重要性への理解が得られているかの確認ができないことも課題である。

今後の展開として、寸劇を行える場を創出し、幅広く住民に映像を観てもらえるよう働きかけ、住民同士の助け合い・支え合い活動の重要性を分かりやすく伝えるためのツールとして寸劇を使用する。(様々な支え合いの寸劇を現在も作成中)

## くろねえ個別会議(上三川町)

### 【基本情報】

団体名:地域包括支援センター	
構成メンバー:住民、SC、民生委員、CM、社会福祉協議会、地区担当保健師等	所在地:上三川いきいきプラザ
電話番号:0285-56-5513	メールアドレス:hokatu@kamisyakyo.or.jp

### 【取り組み概要】

対象者層:住民	活動頻度:随時
活動場所:公民館等	平均利用者数:6~10人程度
利用料金:なし	

### ●取り組みの内容

地域で困りごとを抱えて生活している人の課題を解決するため、自治会や班単位など、身近にいる住民や関係者を中心に話し合い、その支援方法を検討する会議の実施。

### ●取り組みをはじめたきっかけ

一人暮らしや高齢者のみの世帯の増加、認知症など、制度だけでは支えきれない高齢者の支援を検討するために、地域個別ケア会議を開催することとなった。

### ●取り組みにあたっての工夫点

公的(フォーマル)なサービスの調整のほか、非公的(インフォーマル)な支援で対応できることを参加者全員で考えるようにしている。その際、生活支援コーディネーターが地域の社会資源についての情報を提供している。

### ●効果・実績

令和元(2019)年度:地域個別ケア会議20回開催(うち7回は生活支援コーディネーターが参加)

会議を通じて、地域住民がゴミ出しを引き受けたり、関係者で対象者宅の大掃除をするなど非公的な支援につながった事例もあった。

### ●活動にあたり連携している団体等

- ・上三川町健康福祉課高齢者支援係
- ・居宅介護支援事業所
- ・在宅介護支援センター

### ●活動に関する広報方法

- ・地域個別ケア会議の結果を、高齢者支援協議体、地域ケア推進会議に報告
- ・上記会議において、地域課題を抽出

## ●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

- ・社会資源の情報提供
- ・対象者が暮らす地域の特性や、支援を頼めそうな住民の情報提供

## ●現時点での課題・今後の展開

対象者の同意が得られない場合、会議の開催ができないことが課題である。令和2(2020)年度、第2層協議体において個人情報の取り扱いについて協議していく予定となっている。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域住民から参加を断られるケースがある。今後は、従来のように集まって話し合う形式以外の方法も検討する必要がある。





## 「向こう3軒両隣」を目指した安否確認の検討(益子町)

### 【基本情報】

団体名:星の宮地区生活支援協議会	
構成メンバー:星の宮区長、自治会長、民生委員児童委員、健康クラブ会長、社会福祉協議会等	所在地:益子町大字益子2030益子町役場高齢者支援課内
電話番号:0285-72-8867	メールアドレス:kourei@town.mashiko.lg.jp

### 【取り組み概要】

対象者層:第2層	活動頻度:年4回(現在は会議のみ)
活動場所:益子町大字 地内	平均利用者数:(未実施)
利用料金:なし	

### ●取り組みの内容

令和元(2019)年度に実施したアンケート調査において、住民から最も多くの要望があった「安否確認」の取り組みを進めるため、協議会において、実施方法の検討と地域への周知を実施。

### ●取り組みをはじめたきっかけ

平成31(2019)年3月に星の宮地区(約900世帯)をモデル地区とし、生活支援協議会を立ち上げた。「出来ること」から始めるため、住民を対象に、アンケート調査を実施した結果、「手助けしてほしいこと」と「手助けできること」の両方とも1位は「安否確認」となった。

### ●取り組みにあたっての工夫点

取り組みの内容を検討するため、モデル地区内の高齢者(独居又は高齢者世帯の世帯員)を無作為に抽出し、アンケート調査を実施した。

また、取り組み内容として決定した安否確認は、見守る側の負担にならないよう「無理なく」でき、かつ見守られる側の気持ちも配慮し「さりげなく」できる方法を念頭に検討した。

### ●効果・実績

安否確認の実施方法を決定し、チラシにより地域への周知を行った。

各戸1枚ずつお取りください。

星の宮地区の皆さんへ

高齢者見守りネットワークを作りました。

平素より、自治会の運営にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、星の宮地区では、高齢者社会の中で高齢者の皆さんが住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるように、地域で何かできることはないかと、H31年3月より区長・自治会長・民生委員・星の宮健康クラブの会長・社会福祉協議会・町高齢者支援課で協議会を作り、話し合いを重ねてまいりました。

そして、星の宮地区の高齢者の皆さんを無作為に抽出しアンケートを実施した結果、「手助けしてほしいこと」「手助けできること」として1番多かった意見として安否確認がありました。

そのため、まず最初は「向こう3軒両隣」外からさりげない見守りをし、「あれ?」と思ったときの連絡ルートを決め、「見守り、気づき」ポイントをまとめて周知しようということになり、裏面のような見守りネットワークを作成しました。

ぜひ、参考にしていただき、安心して暮らし続けることができる星の宮地区をつくっていきましょう。



星の宮地区生活支援体制整備協議会

※裏面を参考にしてください。

## ●活動にあたり連携している団体等

- ・該当地区自治会
- ・該当地区民生委員児童委員
- ・該当地区健康クラブ
- ・益子町社会福祉協議会
- ・益子町地域包括支援センター



## ●活動に関する広報方法

- ・該当地域の自治会長を通し、チラシを全戸に配布

## ●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

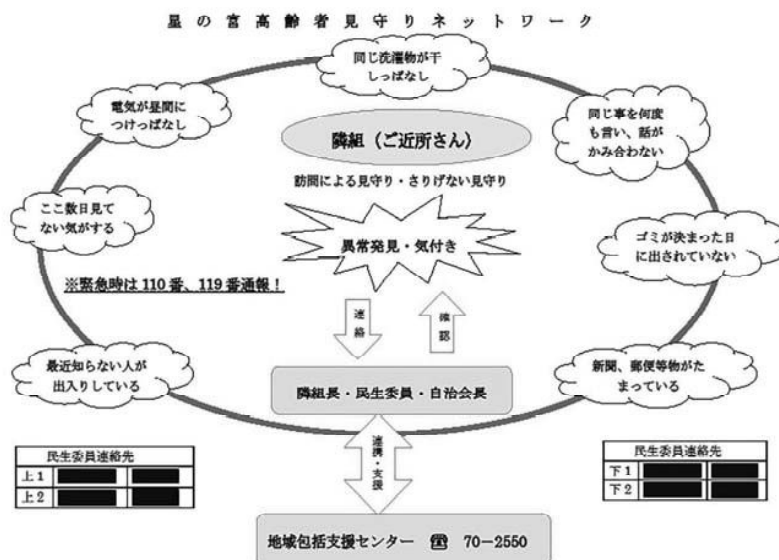
会議の進行、取り組み内容に対するアドバイス、情報提供等を行っている。

また、事業を円滑に進めるには、住民と顔見知りになるなど、この事業以外での関わりが重要となるため、サロンや教室等に出向き、住民の中に入っていくように心掛けている。

## ●現時点での課題・今後の展開

人と関わるのが苦手な人もいます。プライバシーの問題もあるので、地域住民がどこまで入り込んでいけるかが課題である。

今後の展開として、まずは、安否確認の取り組みを地域の方に浸透させていくことになるが、困ったときはお互いの気持ちで支えあえる「向こう3軒両隣」の関係に発展していくことを目指す。





## 松野行政区地域支え合い座談会(那珂川町)

### 【基本情報】

団体名:松野行政区

構成メンバー:住民

### 【取り組み概要】

対象者層:住民

### ●取り組みの内容

地域住民が、地域に合った見守りシステムを検討するため、地域座談会を開催。地域支え合いマップや支え合い体験ゲームを活用し、地域課題の整理、情報共有を図った上で、課題解決に向けた話し合いを実施。

### ●取り組みをはじめたきっかけ

地域見守り隊が町内3か所で組織されているが、その後、新たな組織が立ち上がらないことから、地域に見合った新たな見守りの形を構築させるため、地域座談会を開催することとなった。

### ●取り組みにあたっての工夫点

行政区内の班ごとに分かれ、地域の基本情報からマップに落とし込むことにより、参加者同士のコミュニケーションを図った。

見守りの仕組みづくりは、地域課題の一つであることから、地域力強化推進員と連携し、会議を開催した。



### ●効果・実績

自分の住んでいる地域の現状を知ることができ、今後の仕組みづくりの足掛かりができた。

### ●活動にあたり連携している団体等

・地域力強化推進員

### ●活動に関する広報方法

・行政区での開催のため、参加者については回覧板で周知。

・実施後は、その様子を社協広報誌に掲載し、広く町民へ事業内容の周知を図った。

## ●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

マップづくり部分の進行を担い、意見の出しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、当該地域の現状を知ることができた。

## ●現時点での課題・今後の展開

令和元(2019)年11月に実施した第1回座談会で出された課題を、第2回で今後どのようにしていくか検討する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていない。

また、第1回の参加者が少なかったことから、第2回はより多くの方に参加してもらえるよう働きかけていきたい。



## 1. 生活支援コーディネーターの養成について

栃木県では、地域包括ケアシステムの更なる推進にあたり、市町等に配置されている生活支援コーディネーターの養成・育成を図っています。

新たに、生活支援コーディネーターになった方向けの新任研修をはじめ、実際に活動を進めている現任コーディネーターの方向けに、先進事例の紹介や意見交換を通じた情報共有等を図る現任研修を開催しています。

日頃の活動を通じて感じた悩みや進め方等に対する疑問等の解決の一助となるよう、引き続き、効果的な研修やセミナー等を開催していく予定ですので、ぜひご活用ください。

## 2. 生活支援体制整備アドバイザー派遣事業について

栃木県では、要望に応じて、協議体の活動の活性化や、生活支援コーディネーターの資質向上を目的として、協議体や生活支援コーディネーターに対して、活動に関する助言等を行う生活支援体制整備アドバイザーを派遣しています。

生活支援体制整備の実践者であるアドバイザーが、地域の実情に応じて、きめ細かに指導・助言等を行います。

住民主体の地域づくりの活性化のために、ぜひアドバイザー派遣事業をご活用ください。

## 3. 地域包括ケアシステムの普及啓発について

栃木県では、令和3(2021)年3月に、地域包括ケアシステムの普及啓発を図るため、県民向けにパンフレットやポスター(次項参照)を作成しました。地域住民による「お互いさま」のところで様々な取組が進められるよう、ぜひパンフレット・ポスターをご活用ください。

生活支援コーディネーター養成研修や生活支援体制整備アドバイザー派遣事業等に関するお問い合わせは、お住まいの市町の生活支援体制整備担当部署又は栃木県保健福祉部高齢対策課地域支援担当(028-623-3148)まで、お気軽に御連絡ください。

# 「お互いさま」の 地域づくりを広げよう!

まずは、  
あいざつから  
始めて  
みませんか?

あなたの  
まちには、  
どんな取り組み  
がありますか?

あなたのまちでも、地域住民による「お互いさま」のところで  
高齢者を支えるさまざまな取り組みが進められています。  
明るく活力ある地域を目指して、あなたも取り組みに参加してみませんか?



平成30(2018)年6月撮影  
▲作った料理をみんなで食べる通いの場



▲通院や買い物に行く際の移動支援

「とちぎで暮らし、  
長生きしてよかった」  
と思える社会を目指して



令和元(2019)年11月撮影  
▲認知症の方が地域と交流する認知症カフェ



▼家の掃除などをお手伝いする生活支援

▼新しい生活様式での介護予防体操



やすこみ



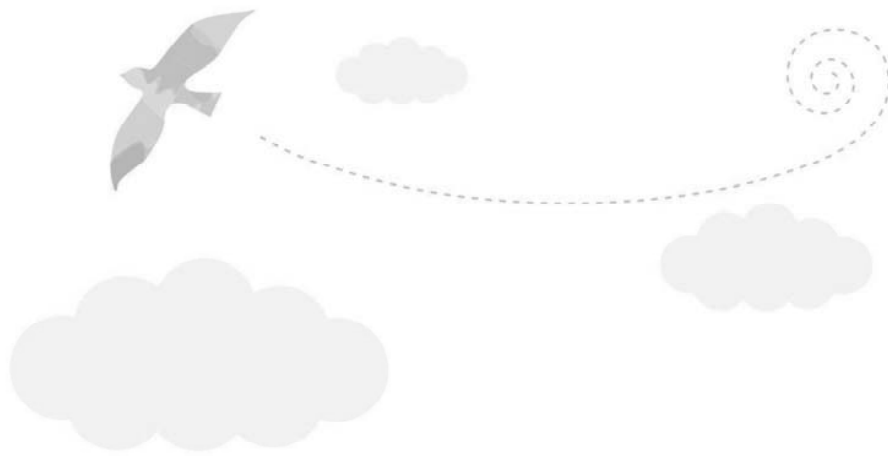
1人ひとりの参加で築く「地域包括ケアシステム」

地域包括ケアシステムとは、  
高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活が  
できるようにするための地域づくりの事です。



あなたのまちの取り組みについては、お住まいの市町(市役所・町役場)の高齢者福祉窓口へ

発行/栃木県保健福祉部 高齢対策課・医療政策課 028-623-3148



栃木県

編集・発行 栃木県保健福祉部高齢対策課  
〒320-8501  
栃木県宇都宮市埴田1丁目1番20号 県庁舎本館4階  
TEL 028-623-3148 FAX028-623-3058

